

「天孫降臨」や「神武東征」は「史実」である。神話ではない。『宮下文書』に書かれている通りの「遺跡」が出土している。『宮下文書』は史実を正確に記録している。『宮下文書』は「偽書」ではないことが判明した。

「日本の歴史学」は「宮下文書」『契丹古伝』『桓檀古記』等を「偽書」としている。早急に再評価すべきである。「遺跡」や「地質学」の成果と「文献」を比較・調査して判断し直す必要がある。

「天孫降臨」や「神武東征」をそのまま「神話」として放置するならば「歴史学者」の怠慢ということになる。

「崇神天皇」は中国からの渡来人である。『古事記』に崇神天皇の「崩年干支」がある。何故、崇神天皇に「崩年干支」があるのだろうか。「歴史学者」はこれについて究明すべきである。『古事記』に「崩年干支」のある天皇についてもっと研究すべきである。『古事記』の「崩年干支」を「偽物」とする限り、「日本の古代史」は解明できない。

日本国民は日本に「貴国」が存在したことを知らない。「日本の歴史学者」が「貴国」を認めていないからである。「歴史学者」は先輩の説を鵜呑みにして自ら調べようとしない。しかし『日本書紀』を読めば「貴国」が存在したことは明らかである。

「日本の歴史」を究明するには『日本書紀』を「繰り返し」「繰り返し」「何度」も「何度」も読むことである。「日本の歴史学者」は『日本書紀』を数回しか読んでいないのではないだろうか。